

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

# Osaka National Hospital

# News



独立行政法人  
国立病院機構 大阪医療センターニュース

このニュースは、年4回、大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。  
詳しいお問い合わせは地域医療連携室までお寄せください。

No.52  
平成28年2月

## 目次

### 地域医療連携室より

- ・ 新任及び退職医師のお知らせ ..... 2
- ・ 講演会のご案内 ..... 2

### 2016年 新年の挨拶 ..... 3

### 病院のトピックス

- ・ 第8回緩和ケア研修会報告 ..... 4
- ・ 『第41回 “愛の夢コンサート”  
クリスマスコンサート』を終えて ..... 5
- ・ サンボンネット スーちゃん&ピリーくん ..... 7
- ・ 平成27年度大阪医療センター災害訓練 ..... 8



独立行政法人  
国立病院機構

大阪医療センター

地域医療連携室

平成28年2月発行 52号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL.06-6946-3516 ☎0120-694-635 FAX.06-6946-3517

[HP] <http://www.onh.go.jp/> [E-mail] [comonh@onh.go.jp](mailto:comonh@onh.go.jp)

# ～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

## ～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

### 1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



### 2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

### 3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

### 4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信

## 新任及び退職医師のお知らせ

医師異動

異動年月	職名	氏名	異動内容
H28. 1. 1	救命救急センター医師	島原 由美子	育休復帰（常勤）
H28. 1. 1	麻酔科医師	草野 真悠子	育休復帰（常勤）

## 講演会のご案内

開催日時	件名	内容	対象者
平成28年2月20日（土）	第37回法円坂地域医療フォーラム	血尿と腎・泌尿器系疾患	医師及び医療従事者
平成28年2月25日（木）	法円坂緩和ケアセミナー	新規オピオイドの特徴と、オピオイドの副作用マネジメント	医師及び医療従事者
平成28年3月 9日（土）	第6回オンコロジーセミナー	放射線療法と皮膚障害のケア	医師及び医療従事者
平成28年4月23日（土）	第54回おおさか健康セミナー	内容：未定 担当：感染症内科	一般市民
平成28年6月11日（土）	第38回法円坂地域医療フォーラム	内容：未定 担当：下部消化器外科、緩和ケアチーム	医師及び医療従事者

**開催場所** 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂 **アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅①号出口すぐ

**問合せ** 地域医療連携室（電話：06-6946-3516） [平成28年6月11日開催の第38回法円坂地域医療フォーラムのみ、シティプラザ大阪で開催]

# 2016年 新年の挨拶



明けましておめでとうございます。皆さま方には良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中はご厚情・ご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、皆さま方のご多幸・ご繁栄をお祈りいたしております。

さて、当院は、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、エイズ診療近畿ブロック拠点病院、臨床研修指定病院など種々の指定を受け、国が実施しなければならない政策医療を、国に代わり地域医療において実施するという大きな使命を担っております。その他にも、緊急災害医療棟や非常用備蓄庫を持ち、西日本災害医療拠点病院、大阪府災害拠点病院、厚生労働省医政局災害医療対策室DMAT事務局など、災害医療に対する取り組みも行っていきます。

また、今後の地域包括ケアシステムにおいては、地域における高度急性期・急性期医療を提供すると共に、特別な医療需要に対する在宅医療も提供し、地域とのつながりをますます深めて行きたいと考えています。このミッションを達成するため、医師・医療者向けの「法円坂地域医療フォーラム」や「緩和ケアセミナー」、市民向けの「おおさか健康セミナー」などを定期的で開催しています。また、未来の医療人を育てるために、中学生・高校生向けに「アドベンチャーHospital in 大阪医療センター」を毎年開催しています。

しかし、このような活動を今後とも維持していくには、病院が老朽化しており、これまでも改修を加えてきましたが、限界に達しつつあります。そのため、昨年より病院の更新築に取りかかっております。新病院はこれまで来客駐車場として使用していた土地に建てる予定であり、そのため、昨年8月より病院へのアクセス経路や駐車場を変更しました。たいへんご迷惑をおかけし、申し訳ありませんが、新病院が建つまでの間、ご容赦をお願いいたします。

当院は専門性の高い良質の医療を提供できていると自負しています。この特長を生かし、更なる医療の質の向上、地域への還元をさらに進めていきたいと考えております。また、診療のみならず、教育・研修、臨床研究、情報発信についてもこれまでの活動を継続させ、より一層発展させていく所存です。

本年も、ご支援・ご援助のほどをよろしくお願い申し上げます

独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター院長 楠岡 英雄



## 第8回緩和ケア研修会報告

臨床腫瘍科/緩和ケア内科・がんサポートチーム  
青野 奈々

昨年11月28日（土）、29日（日）に当院緊急災害医療棟の講堂において、緩和ケア研修会を厚生労働省の開催指針に沿って開催しましたので報告致します。

2007年のがん対策推進基本計画にて「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことが目標として掲げられ、厚生労働省より出された「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠する、医師に対する緩和ケア教育プログラムPEACE (Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education) を使用した研修会が全国のがん診療連携拠点病院を中心として実施されてきました。

がん性疼痛指導管理料やがん患者カウンセリング料などの診療報酬算定上も当研修会を修了していることが条件となっており、特にがん診療連携拠点病院においては、がん診療に携わるすべての医師が当研修会を修了することが目標として挙げられています。

看護師や薬剤師なども含めた多職種で開催することもあります。今回は医師のみでの実施となり計25名の院内外の医師の方が受講され、緩和領域で使用する薬剤や身体・精神症状緩和、地域連携などに焦点をあてた講義・ロールプレイ・グループワークを含めたプログラムを2日間にわたって実施致しました。

ロールプレイやグループワークなど、普段経験されることの少ない形式での研修会ですが、受講者の皆様には非常に熱心に取り組んでいただき、議論も活発となりファシリテーター側にとっても非常に実りのある会となりました。受講者全員が最後まで参加されて受講修了証を手にする事が出来ました。

近年ますます、がん診断時からの積極的な緩和ケア介入が求められており、患者・家族の視点に立ち、出来る限り苦痛なくがん診療を受けていただけるような診療体制作りが重要視されています。当研修会は大阪府下において年間40施設以上での開催が予定されておりますので、少しでもご興味がある方は是非ご参加ください。



# 『第41回 “愛の夢コンサート” クリスマスコンサート』を終えて

ボランティア・コーディネーター 藤本 和彰

2015年12月8日、当院・講堂にて音楽ボランティアの皆さまによる、第41回“愛の夢コンサート”クリスマスコンサートを開催しました。

会場の講堂には大小2体のクリスマスツリーが、ボランティア「法円坂」の皆さまにより、とても綺麗に飾り付けられました。そして会場は楽しみにされている患者さん・ご家族で一杯に！“皆さまこんばんは～……”いつも進行のお手伝いをして下さっている、八田 叔子さんの挨拶でコンサートが始まりました。

最初の奏者は、ピアノソロの佐竹 史子さん。今回で41回を迎えた“愛の夢コンサート”ですが、第1回よりレギュラー出演していただいています。オープニング曲は「♪ある愛の詩」。この曲は、環境の全く異なった世界に育った男と女の切ないロマンスを描いた不朽の恋愛映画、ある愛の詩（1970年アメリカ映画）の主題曲。音楽はフランス・レイ、アカデミー作曲賞に輝きました。銀幕のスターの面影や、映画の1シーンなど思い出されましたでしょうか？！

続いて「♪エーゲ海の真珠」「♪ゴッドファーザー～愛のテーマ～」の2曲を聴かせていただきました。今回も“愛の夢コンサート”に相応しく、“愛”をテーマに選曲して下さいました。それぞれに情景を思い浮かべながら、懐かしく聴いておられたのではないのでしょうか。

そして最後はオリジナル曲「♪雪山」。山陰方面に向かれた折、シンシンと雪が降り積もり、真っ白に光り輝く雪山を見て作られた曲だそうです。ピアニスト・作曲家として活躍中の佐竹 史子さん。その華奢な体からは想像できない華麗なテクニックと、作曲家ならではの情感豊かで、美しいアレンジの旋律に思わず引き込まれてしまいます。生のピアノ演奏をさぞやお楽しみいただけたことを感じています。

続いての奏者はピアーチェの皆さん。プログラムは、

- ♪「テ・デウム」より序曲：シャルパンティエ
- ♪「アヴェ・ヴェルム・コルプス」：モーツァルト
- ♪「コッペリアのワルツ」：ドリーブ
- ♪「トリッチ・トラッチ・ポルカ」：シュトラウス
- ♪「クラリネットをこわしちゃった」：フランス曲
- ♪「そりすべり」：アンダーソン

★みんなで歌いましょう！

- ♪「ジングルベル」
- ♪「交響曲第9番」より喜びの歌：ベートーヴェン

ピアーチェはイタリア語で「楽しい」「愉快的な」という意味です。皆さまの身近な場所を訪問し、ピアノ・ヴァイオリン・フルート・歌のアンサンブルで生演奏を届けて下さいます。これまで、ピ



アノ（山口 美樹子さん）・ヴァイオリン（浜田 里香さん）・フルート（川瀬 千佳江さん）・声楽（ソプラノ・平田 雅代さん）女性4人のアンサンブルに、今回クラリネット奏者・森 健太郎さんが加わり、5人で参加して下さいました。

今日も、とてもバラエティに富んだ素敵なプログラムを作って下さり、ソプラノの美しい歌声と素晴らしい演奏で、「ビアーチェ」ならではの、文字通りの楽しい・愉快的思い出に残るステージを、多くの患者さんに届けて下さいました。そして何よりも「元気」をいただきました。

黒一点の森 健太郎さん。「♪クラリネットをこわしちゃった」では、「本当にクラリネットって壊れちゃったら、ドとレとミの音が出なくなっちゃうの？……」の疑問に、実験をやって見せて下さいました。結果は……クラリネットを5つに分解、音程が変化しながらも見事に演奏されました。それには、「びっくりポンや……（笑い）」。

そして「みんなで歌いましょう！」のコーナーでは「♪ジングルベル」「♪喜びの歌」を合唱し、プログラムを終えました。

そして最後、まさかのサプライズに感激です。今日のクリスマスコンサートのプレゼント曲に、あの「♪ラデツキー行進曲（シュトラウス）」を演奏して下さいました。

ラデツキー行進曲は、毎年お正月（1月1日）にオーストリアのウィーンで開催されるニューイヤーコンサートにおいて、アンコールの大トリを飾る定番の行進曲です。リズムに合わせて会場一体となつての手拍子に、楽しさと心の温もりにも、とても幸せを感じるひと時でした。

音楽を身近で感じ、心豊かな時間を過ごしていただけたことと思っております。音楽はどんな時でもどんな所でも、皆さんと一緒に心で楽しめる大きなパワーを持っていると信じています。一期一会、音楽を通じ、少しでも心を和らげ、少しばかり早いXmas、クリスマス気分を満喫していただけたならば、幸いに存じます。

ボランティア皆さんからの、「心の贈り物“愛の夢”クリスマスコンサート」、会場一杯のお客さまに聴いていただくことが出来ました。そして色々な方々に支えていただき、無事終えたことにも、幸せを感じます。

そして何より、この病院コンサートが末永く続くことを願っております。「楽しい時間をありがとうございました。」皆さまのご支援・ご協力を感じいたします。





# サンボンネット スーちゃん & ビリーくん

小児科病棟師長 川上 浩美

今回、「キルトで病気と闘っている子供たちを応援したい。小さな応援がいっぱい繋がったキルトを沢山見て、触ってもらって元気になってもらいたい」この趣旨に賛同された全国のキルターさん、北は北海道から南は九州までの63名の作品が一枚のキルトに仕上げられ、12月17日Happy Quilt Circleのみなさんから小児科病棟に『フレンドシップキルトのスーちゃん』のキルトを寄贈して頂きました。

サンボンネットとは日よけ帽子のことで、キルトのモチーフの「サンボンネット・スー」はパッチワーク・キルトの中で最も人気のあるキャラクターだそうです。男の子の名前が「ビリーくん」です。

早速、外来通院の患者さんや子供たちにも今回のメッセージを伝え元気になってもらいたいと、一定期間1階ロビーに掲示しました。1階のロビーに掲示する準備をしていると数名の患者さんたちが集まって来られ「これ何、すごい。すてきね。」と声をかけてくれる方や携帯で写真を撮っていかれる方がたくさんいらっしゃいました。

小児科病棟では、12月22日クリスマス会の時に子供達にお披露目をしました。クリスマス会に出席していた13名の子供たちやそのご家族の方々からも「すごい、きれい」と歓声が上がりました。現在、小児科病棟の入り口に掲示をしています。今にも動きそうな『サンボンネット スーちゃん&ビリーくん』を子供たちは見て・触って元気をもらっています。今回の趣旨に賛同してパッチワーク・キルト作製し、当院に送っていただいた皆様にこの場を借りて、御礼申し上げます。また、当院にお越しの際、お時間があれば、6階の病棟ロビーに展示しておりますので、一度ご覧ください。



## 平成27年度大阪医療センター災害訓練

災害医療対策部 訓練・マニュアル管理室長 若井 聡智

## ■はじめに

国立大阪医療センター（以下、当センター）は、大阪府の災害拠点病院として、災害時には当センターの病床数と同等数の被災者を受け入れることが責務とされています。

そのため、当センターでは15年以上にわたり全職種参加の災害実動訓練を実施しており、その都度改善をして、実災害への対応力を向上させる努力を続けています。

当センターの災害訓練は、阪神淡路大震災の記憶を風化させないために毎年1月第3土曜日に実施しており、今年度は1月16日に行いました。幸いにも、天気は快晴、最高/最低気温10.5/2.2℃と厳しい寒さは免れました。

## ■訓練想定

病院幹部が不在であっても、当直者だけで円滑に災害対策本部が設置できるようにするために、訓練は当直時間帯に発災する想定で行っています。（7：20発災想定）

淡路島を震源とするM9.1の地震が発生し、大阪市内において最大震度7を記録、多くの家で



倒壊・火災が発生、ライフラインが寸断するなどの甚大な被害を受けたという想定で行い、当センターも軽度の被災があるとしてしました。また周辺地域の工場で爆発事故が発生し、爆傷患者も数名発生したという想定としてしました。

これはテロの脅威が高まる昨今、来年度には爆発テロによる多数傷病者事案にも対応できるように訓練を行うことを予定しているため、今年度から爆傷患者の対応も訓練課題に組み込みました。

さらに、放射性物質運搬中の車両が交通事故を起こし、放射能汚染を伴った負傷者発生も想定し





ました。これは当センターが大阪府の2次被ばく医療機関として位置付けられているため、放射線災害に備えて先の東北震災での福島第一原発事故直前の平成23年1月から実施している想定で、今年で6回目になります。

訓練参加者は見学者・評価者を含め約600名で、当センター以外からも多数参加していただきました。3病院（国立姫路医療センター・大阪府立急性期医療センター・大阪警察病院）のDMATに参加していただき、DMAT病院支援指揮所を立ち上げ、当センター職員と協働して被災者の診療・院外搬送を行っていただきました。

また例年通り、被災者の気持ちをより深く実感できるために、約120名の被災者役は当センター附属看護学校の学生が行いました。（被災者想定：緊急治療群＝赤14、待機的治療群＝黄56、軽症群＝緑41、不処置群＝黒8名）

今年度から当センターの建て替え工事が始まったため、従来のトリアージエリア・緑エリアの設定場所を変更して本館1階としました。災害対策本部など他のエリアは、従来通り、緊急災害医療棟を中心に設置しました。中でも黄エリアは、緊急災害医療棟3階講堂に設置するようになっていますが、ベッド配置を工夫して60床まで増床できるように改善しました。

#### ■訓練前の災害講習

災害訓練2ヶ月前から数回にわたり、全職員を対象とした災害講習も毎年実施しております。それによって、災害医療の基礎から災害時における当センターの役割まで、知識の整理をして訓練に臨むようにしています。

また、災害時の最も重要な課題の一つである、災害で亡くなった方の御遺族に対する心のケアに

関する問題になかなか取り組むことができませんでしたが、今年度は訓練前講習で行うことができました。当センターの廣常秀人精神科長の指導のもと、シミュレーション形式で実施し、多くの職員が参加しました。

#### ■当センターの先進的な取り組み

“情報を制するものは、災害を制する。”と言われるように災害時の情報管理は最重要事項であります。災害急性期の情報収集・処理は困難を極めます。早く正確に院内の被災状況・空床数等の情報把握をするための工夫として、当センターでは電子カルテ端末でのそれらの情報発信・閲覧ができるようにしています。

また、災害時には経時記録（クロナロ）が必要ですが、多くの場合、担当者の手書き作業によって記録するしかありません。膨大な量の情報を書き残すことは、非常に労力を要するため、我々はアドバンスト・メディア社と共同で音声認識による災害時クロナロ技術を開発しました。これにより、クロナロ担当者の労力が極めて軽減されるかを、当センターの災害訓練を通して検証しています。

#### ■災害訓練を終えて、課題と今後の展望

毎年、少なからず課題は出てきますが着実に進歩発展しているという実感はあります。

今回の反省点も“*Good judgment comes from experience, and a lot of that comes from bad judgment.*”の言葉通り、実災害対応に活かせると信じております。

来年度はテロによる大規模な特殊災害対応訓練が実施できるように、医療以外の多機関とも連携を深めて、職員が一丸となって被災者を救命できるようにと頑張りたいと考えています。



# 大阪医療センターの 講演会・セミナーなど

大阪医療センターでは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援するために定期的に講演会やセミナーなどを開催しています。

## 第53回 おおさか健康セミナー

**講演 メインテーマ**  
日常よく見られる運動器の病気  
～その病態と診断・治療

日時：平成28年1月23日(土) 14:00～16:30  
会場：国立病院機構 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階 講堂

**講演内容**

総合司会 国立病院機構 大阪医療センター 整形外科 科長 上田 孝文

- くび・肩の痛み  
国立病院機構 大阪医療センター 整形外科 青野 博之
- 腰痛・下肢のしびれ  
国立病院機構 大阪医療センター 整形外科 青野 博之
- 股関節の痛み  
国立病院機構 大阪医療センター 整形外科 医長 三木 秀宣
- ロコモティブシンドロームって何？  
国立病院機構 大阪医療センター 整形外科 東6病棟部長 角野 郁子
- ひざ関節の痛み  
国立病院機構 大阪医療センター 整形外科 科長 上田 孝文

▶質問に対する回答  
※なお料金の関係上、全ての質問にお答え出来ない場合がございますのでご了承ください。

▶次回開催予定 平成28年4月23日(土)(血液内科、感染症内科)

お問い合わせ 国立病院機構 大阪医療センター 地域医療連携室 久米  
TEL 06-6942-1331(代)

## 健康セミナー

### 運動器の病気と治療

日時：平成28年1月24日(土) 14:00～16:30  
会場：国立病院機構 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階 講堂

**内容**

国立病院機構 大阪医療センター 耳鼻咽喉科 科長 西村 洋

から音が出る不思議な現象のお話  
耳鼻咽喉科 科長 西村 洋

耳鼻咽喉科 医師 北村 貴裕  
(耳の内視鏡手術と人工内耳)  
耳鼻咽喉科 科長 西村 洋

お問い合わせ 国立病院機構 大阪医療センター 地域医療連携室 久米  
TEL 06-6942-1331(代)

## 地域連携プロジェクト勉強会

### ～退院支援のあれこれPART. 2～

日時：平成28年1月17日(火)  
15分  
室  
カル  
室の  
援報告

## 地域連携プロジェクト勉強会

### ～退院支援のあれこれPART. 1～

日時：平成27年12月11日(金)  
17時30分～18時30分  
場所：国立病院機構 大阪医療センター  
災害医療棟2階 視聴覚室  
対象者：看護職・コメディカル  
内容：退院支援(意思決定支援)  
MSW介入のタイミング

## 第37回 法円坂 地域医療フォーラム

テーマ：『血尿を来す疾患について』  
参加費 無料

日時：平成28年2月20日(土) 15:00～17:30  
会場：国立病院機構 大阪医療センター 緊急災害医療棟 講堂(3階)

【司会】国立病院機構大阪医療センター 地域医療連携推進部長 橋川 一雄

**第1部 教育講演**  
【座長】国立病院機構大阪医療センター 腎臓内科 科長 岩谷 博次  
血尿を泌尿器科医はどのように診るか  
国立病院機構大阪医療センター 泌尿器科 医長 原田 泰規

**第2部 教育講演**  
【座長】国立病院機構大阪医療センター 泌尿器科 科長 西村 健作  
血尿を腎臓内科医はどのように診るか  
国立病院機構大阪医療センター 腎臓内科 科長 岩谷 博次

**第3部 患者会からのご意見**  
【座長】国立病院機構大阪医療センター 腎臓内科 科長 岩谷 博次  
多発性嚢胞腎(PKD)患者・家族の現状  
PKD財団日本支部 程内 栄子

閉会の挨拶  
国立病院機構大阪医療センター 地域医療連携推進部長 橋川 一雄

主催：『法円坂 地域医療フォーラム』運営協議会

## 法円坂地域医療フォーラム

### ゲノム治療の展望

参加費 無料

日時：平成28年2月20日(土) 15:00～17:30  
会場：国立病院機構 大阪医療センター 緊急災害医療棟 講堂(3階)  
電話番号 06-6942-1331

地域医療連携推進部長 橋川 一雄

院長 橋岡 英雄  
総長 松浦 成昭

臨床病態治療学研究室 教授 林 哲也  
IV薬の薬物動態に及ぼす影響  
薬理学部 副系主任 矢倉 裕輝  
分系の利点を活かした臨床応用～  
生薬科学研究室 准教授 芝野 真喜雄  
医療への応用  
外科医長 三吉 範克

【座長】国立病院機構大阪医療センター 臨床研究センター長 是恒 之宏  
「ゲノム医療実現における現状と将来展望」  
理化学研究所統合生命医科学研究センター 副センター長 久保 充明

3.閉会の挨拶  
大阪薬科大学 学長 政田 幹夫

主催：探病医薬物研究会・法円坂地域医療フォーラム運営協議会・国立病院機構大阪医療センター・大阪薬科大学・大阪府立病院機構大阪府立成人病センター・塩野製薬株式会社

## 地域医療スタッフ交流会

### ～地域と病院をつなぐ～

日時：平成27年 9月13日(日)  
13:00～15:00  
場所：災害医療棟 2階 視聴覚室  
地域で働く看護職・介護職の皆さんと  
日頃の看護や患者・家族との関わりについて語り合しましょう！！

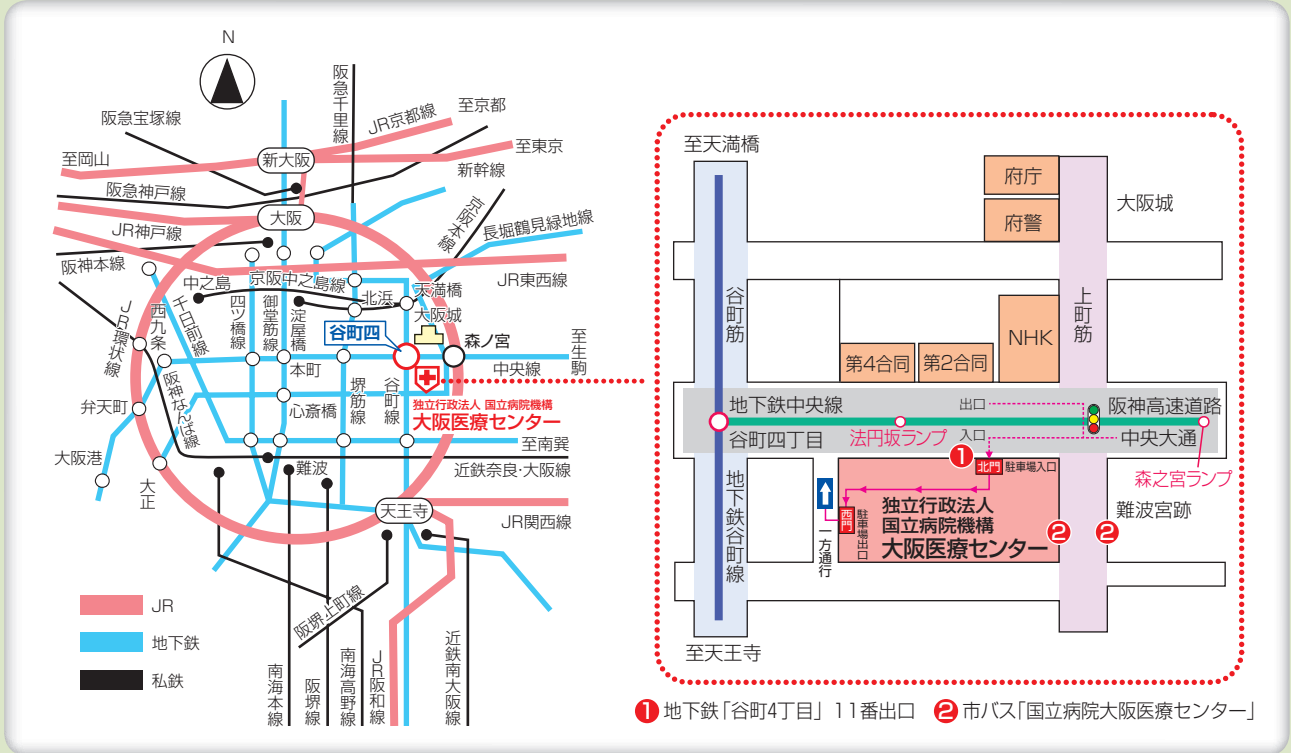
大阪医療センター 看護部 地域連携プロジェクト







# 交通のご案内



## ■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

## ■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

## ■バス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

## ■マイカー・タクシー

- ・ 阪神高速 13号 東西線
- ▼環状線経由の場合
  - 「法円坂」出口 上町筋を右折転回し、左折すぐ
- ▼東大阪方面からの場合
  - 「森ノ宮」出口 中央大通り直進、上町筋と中央大通りの交差点を直進し、左折すぐ
- ・ 現在新病院建設工事の為、中央大通り沿いの入口(北側)をお願いしております。
- ・ また、敷地内は一方通行になっており、出口については西側となっております。
- ご協力よろしくお願いたします。